

福島町議会様

政務調査報告書

平成23年 4 月 15 日

福島町議会議長 平野 隆雄

調査日時 平成23年2月13日—2月15日

調査場所 南幌町・喜茂別町

視察内容等

- ① 南幌町 地域公共活性化事業及び町内巡回バスの運行状況について

視察研修目的

福島町で事業が予定されている地域活性化を目的にした、町内巡回バスの運行内容の現況・問題点等を把握する。

担当者より、巡回バス運行までの経過・現状及び問題点や課題点の説明を受けてその後質疑応答。

考察 高齢者の足の確保として地域住民から要望があり、役場職員で構成の町営バス運行に係る検討会議により、民間事業者の路線をはずした形で試行運転をした。平成十三年度からは、民間業者に運行を委託して実施。

人口の減少や自家用車の普及でバスの利用者が年々減少しており、バス運行経費が町の財政を圧迫し、費用対効果も低くなっている。

23年度からは大幅な事業の見直しが決定されている現況である。

当町での事業実施に当たり、地域交通の現況の把握、町内事業者との協議、利用者のニーズ把握調査等が課題と考察される。

② 喜茂別町 移住体験事業について（地域おこし協力隊について）

視察研修目的

人口減少や高齢化の進行がいちじるしい地方に対し・地域力の維持・強化が重要な課題となっている現況の中、国が推進している、地域おこし協力隊事業の先進地、喜茂別町の取り組みを研修する。

考察 喜茂別町の協力隊員は、10人が高齢者の多い地区に配置され、その活動状況及び問題点等は道新の新聞記事に掲載されている。

二年間の活動の後、町内での起業・就業の縛りがあり、町内状況では簡単に目的が達成できない状況のように考えられた。

当町での実施に向けても、協力隊員の待遇、協力活動の内容、定住の縛り等まちづくり基本条例・議会基本条例の中で十分な検討・議論、協議が必要と思われる。岩部や千軒地区は、学校が廃校し、高齢者だけが住む限界集落への対策に迫られている。